

雪洞

糸魚川勤労者山岳会

会長 青木 満 磨

TEL 025-552-9901



(2116)No.66 発行 2019年 10月 13日



山行記

★山域・山名＝北ア・有明山 2268m

★山行日＝2019年 10月 9日（水）

★天 候＝晴れ

★山行者＝大竹（報告、写真）、吉田

▼コースタイム＝有明山荘登山口(7:20)…有明山北岳・中岳・南岳(10:30-11:40)…有明山(12:20)…(14:40)有明山登山口

▼雲が山を包む朝(7:20)登山口に立つ。快晴の予報がいつ表れるのか楽しみだが、「林の中を歩くだけで何も見えない山」という情報だから、景色は諦めて、とにかく急登に向かいゆっくり歩き出す。等高線の混み具合からここは登りきるしかない。

▼地点標識が見当たらずどこまで到達しているのかわからない。ロープあり、梯子あり、岩場あり、クサリ場ありで気の抜けない登山道だ。手から滑ったストックはスルスルと崖下に消えいった(トホホ…(。))。空が明るくなり、太陽の日差しが樹々の間から洩れ始める頃、稜線に出ると景色が広がった。

▼「何も見えない山で面白くない」と言ったの



有明山南岳の立派な祠

は誰だったかなあ～？。素晴らしい景色じゃないか^o^(。約3時間で北岳2268mに着く(10:30)。全方向の景色が見え、10月2日の燕岳山行の時より大きな富士山が望める。中岳までは200mとの看板を見て歩き出すが、



クッキリの富士山遠望



ストックを失ったクサリ場



中央の稜線に燕山荘が見えています 右は燕岳

▼12:20 下山開始し、14:40 登山口に戻る。燕岳より歩く距離は短い歩きごたえのあるしっかりとした山だと印象に残った。愛知・岡崎市から登山に来たという3人組に会った。なぜか一度は登っておかないと気が済まない山ということで意見

ヤブと岩場の細道。「ここまで来たら行くしかない」と、さらに標高差 20m 下になる南岳 2248m を目指すがさらに道は険しい。
▼ピストンして北岳に戻ったら1時間が過ぎていた。雲が消え、下界の安曇野の家々が見え標高 2000m 超の高みにあることを実感し、晴天の陽射しを浴びながら昼食を摂る。

が一致した。「信濃富士」と言われ、地元の人々の信仰の山「有明山神社」のご神体なのだから。
▼有明荘の温泉（入湯料 700 円に値上げした？）にゆっくりと浸ったあと帰途に就いた（18:00）。 《報告&写真 by 大竹》

・・・新たな氷河が確認されました・・・

- ▼長野、富山両県にまたがる北アルプス唐松岳 2696m の唐松沢雪渓（長野県白馬村）が、新潟大学などの調査でこのほど“氷河”と確認されました。国内では 7 例目となります。
- ▼唐松沢雪渓は標高 1750~2280m で、表面の雪の下に厚い氷体が広がります。厚さは平均で約 25m、最も厚い所で約 35m あり、長さは約 1 km に及びます。



- ▼日本国内の氷河は、立山の「内蔵助」、「御前沢」、劔岳の「池ノ谷」、「三ノ窓」、「小窓」、2018 年 1 月には鹿島槍ヶ岳の「カクネ里」が認定、今回の「唐松沢」で 7 ケ所となります。